

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 地殻大型地震の可能性推定前兆 続報

長期継続特殊前兆群の現況報告続報です。

8/14顕著なS型火山帯近傍地殻地震前兆と特異状態の両方の特徴を示す変動(S型特異とします)が出現したことから、8/15±を示す前兆を消去し、これ以外の前兆変動から、対応地震発生時期推定を検討中です。(右図参照)

配信済の実験観測情報で既に報告のとおり、直接波近似変動が出現した6/26を初現とするか、CH6, CH17

の特異が継続出現した6/22を初現とするかで、8/30±の可能性と9/7±の可能性が示唆されることを報告致しました。

本日現在の状況は、直接波近似変動は極めて小さくなっています。CH6特異は一日に数十分程度の出現のみ。CH17も短時間CH21特異は変動値は小さくなっていますが、未だ特異状態出現中と云う状態です。直接波近似変動は通常地震前兆形態ではないことから、通常地震前兆の時間変化経験則を適用することが正しいか否か疑問ですが、同時期に特異状態も顕著化したことから、通常地震前兆と同じ経験則で解析しています。

本日8/21夕刻時点で、完全終息した前兆が認められないことから、9月1日以前に対応地震が発生する可能性は否定できません。従って、CH4の直接波近似変動が出現した6/26を初現とする認識は誤りであることが明確です。

次に考えやすいのは、CH17の特異状態連続出現開始の6/22を初現とする考え方です。6/22でも夜になってから出現したしているため、初現を6/22.8とし、7/18午後~7/19午前に変動値が大きい直接波近似変動の極大を7/19.0と認識し、通常地震前兆時間変化経験則のT_{fap}:T_{map}=20:13を使用した場合は、9/5±が計算されます。単に6/22初現とした場合は、9/7±が計算されます。

[9月1日以前発生の可能性は否定]

◆推定領域=右A図

(大枠=太線領域内・参考推定領域=斜線域)

※右A-1図=火山帯近傍の可能性を加味した場合の考えやすい参考推定領域

※影響局誤認の場合は少々考え難いが、別領域として右図B領域の可能性も参考掲載

◆推定規模=M7.8±0.5 (PBF 継続時間より)

(M7.5~7.9範囲内の可能性考え易い)

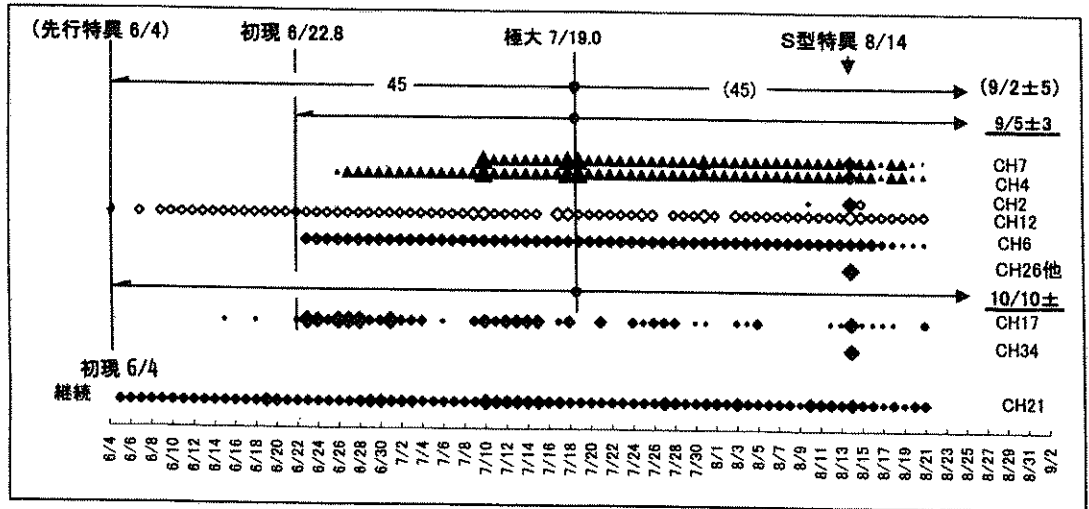
◆推定時期=早い場合:9月5日±3 (以下参照)

※CH21特異、CH4,7直接波近似変動終息等、今後の観測で発生推定日を修正し報告予定。今月末迄に前兆終息しない場合=10月以降の可能性

◇推定地震種=震源が浅い地殻地震

◇推定発生時刻=午前9時±2 又は夕刻6時±2

※多忙のため、本続報はFAX & E-mailで配信しております「実験観測情報」8/21 17:00配信分を転載させて頂きました。



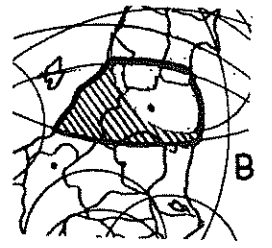
CH12の特異状態出現は、6/4に見えます。これを先行特異初現と認識した場合は、先行特異初現~極大:極大~発生=1:1経験則を使用しますと、6/2±5の可能性が示唆されます。(誤差大)

但し、6/4を初現とし、7/19極大で先のT_{fap}:T_{map}=20:13で計算しますと、発生時期は10月10日±が計算されます。参考までに先に記しておきます。ちなみに非常に考え難いですが、6/4初現、8/14の特異極大の場合は、12月24日±が計算されます。前兆が過去例にない特殊形態の為、あらゆる可能性を検討中。

仮に9/5±発生の場合はT_{map}=48日、T_{pp}=12.3日 従って前兆終息推定時期=8/24±となります。8/26以降も前兆が継続する場合は、10月10日±の可能性も考えられますので、今月末近くに前兆が終息するか、慎重に観測を続けます。8/14のS型特異極大は単独出現の可能性が有。またS型前兆と認識した場合は、1ヶ月以上の長さは考え難いですが、実際の観測データを見て考察したいと考えます。前兆に変化があった時点で考察。



左A-1図は、8/14出現のS型特異状態から、ある程度火山帯に近い領域である可能性も示唆されるため、下図A図の中で可能性が考えられる参考領域を斜線で示したもの。



影響局誤認の場合の参考別推定領域図B

C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台